

## 末梢神経伝導速度検査とは

手や足にある運動神経（動作に必要な神経）・感覚神経（痛い・熱いなどの感覚を伝える神経）の走行に合わせて、皮膚の上から電気刺激を行い、その刺激が神経を伝わるスピード（伝導速度といえます）を調べる検査です。

どの神経を調べるかによって、刺激する位置や刺激箇所数が異なります。

## 末梢神経伝導速度検査でわかること

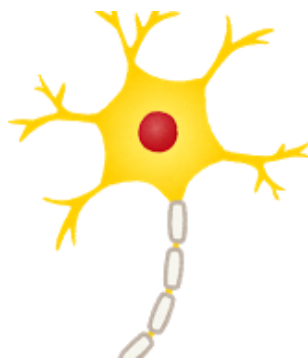
通常検査では主に2種類の検査を行っています。

### 1. 運動神経伝導速度検査

「手や足が動かしづらくなる」などの症状がある時、運動に関わる神経の伝達速度が遅くなっていることがあります。このような変化がないかを調べます。

### 2. 感覚神経伝導速度

「しびれや痛み、熱さや冷たさの感覚が鈍くなる」などの症状がある時、感覚に関わる神経の伝達速度が遅くなっていることがあります。このような変化がないかを調べます。



## 末梢神経伝導速度検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

### Q：電気刺激は痛いのですか？

A：神経を刺激する必要があるため、多少の痛みが伴います。弱い刺激から徐々に強くしていきますが、強い刺激を長時間与えることはありません。ただし、与える刺激の強さや時間は患者様によって異なるため、痛みの程度は患者様それぞれで異なります。身体に影響はありませんのでご安心ください。最大でも50mA程度の電気刺激です。

### Q：刺激によって体はどうなるのですか？

A：皮膚の上から約1秒ごとに刺激するだけですので、検査の対象となる神経の支配を受けている筋肉（腕や足、または指）だけが動きます。

### Q：検査にはどれくらいの時間がかかるのですか？

A：調べる神経の場所（手・足）や本数、神経の状態などによって異なります。一般的に、手の神経の場合は足や顔の神経に比べ、刺激箇所が多くなるため、1時間程度かかる場合があります。



Q：検査してもらいたい場所と違う場所を刺激するのはなぜですか？

A：神経の走行に沿って刺激を与えています。神経は脳や脊髄（せきずい）から指先まで伸びています。症状のある部位に関係している神経の、どの場所に障害があるかを見ているので、例えば指のしびれを訴えられた場合、通常手首や肘、二の腕のあたりまでを刺激します。

